

バギー／SKIP_R/R

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
 でございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした
 上でお使いください。

本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておい
 てください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わ
 せて、必要なときに本書をお読みください。

目次

使用目的・特徴	2
はじめにご確認ください	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
バギーの開きかた	7
バギーのたたみかた	8
乗り降りのしかた	9
アームサポートの跳ね上げ	9
各部の調節のしかた	10
アームサポートの高さ調節	10
フットサポートの高さ調節	10
バックサポートの角度を変える (リクライニング機能)	11
シート奥行き調節	12
バックサポート(背もたれ)の張り具合調節	12
手押しハンドルの高さ調節	13
使用上のご注意	13
困った時には	15
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

使用目的・特徴

本製品は座位保持および姿勢変換を目的として設計されたバギーです。姿勢を保持することが困難な使用者向けです。本製品は使用者が自分で操作するものではなく、介助者が操作を行う一人用バギーです。

はじめにご確認ください

本製品購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- ・バギー本体
- ・工具(スパナ:2本、六角レンチ 5mm:1本/4mm:2本/3mm:1本)
- ・取扱説明書(本書)
- ・保証書

※選択されたオプションにより上記以外のものが同梱されている場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

- | | |
|---|---|
|  危険 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。 |

【記号の意味】

- | | |
|---|--------------------------|
|  | 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 |
|  | 禁止の行為であることを告げるものです。 |
|  | 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 |

危険

- | | |
|---|---|
|  | スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 |
|  | 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。 |
|  | エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。 |



警告

- 

乗り降りの際にはフットサポートや座シートの上で立ち上がらないでください。
主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。
- 

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキを掛けてください。
ブレーキがかかっていないとバギーが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。少しの間の停止でも、必ず駐車用ブレーキをかけてください。
- 

溝や踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、溝に対して直角に進入し停車せずに通過してください。
踏切内で方向転換をしたり、線路に対して斜めに進入された場合、キャストや主輪が溝にはまり抜けなくなる恐れがあります。主輪の落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。
- 

使用者を乗せたままバギーを持ち上げないでください。
- 

走行中は、リクライニング操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

アームサポートを持ってバギーを持ち上げないでください。
手や指をはさむなど、けがをする恐れがあります。
- 

バギーを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用してもバギーが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- 

バギーに座った状態で過度の前傾姿勢をとらないでください。
前方へ転倒する恐れがあります。
- 

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
バギーが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

駐車用ブレーキは定期的に安全点検を行ってください。
- 

クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性によりバギーを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。
- 

乗り降りの時は、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。
バギーが動きだし、事故やけがをする恐れがあります。
- 

使用する前に、両側の折りたたみジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒するなどの事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

エレベーターを使用するときは、ドアとエレベーターの隙間などにキャストや車輪を落とさないようご注意ください。
- 

アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。
使用者がバギーから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

座奥やフットサポートの長さ、アームサポートの高さ調節は、販売店へご依頼ください。
- 

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを入れたり、吊り下げたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- 

バックサポートの角度やシート奥行き、フットサポートの高さ調節を行った際、各所のロックピンが確実にパイプにはめ込まれてロックされていることを確認してください。
ロックされていない状態で使用しますと、ロックが外れて事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。
- 

バギーの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因になります。
- 

バギーを開くときやたたむときは、折りたたみジョイントやジョイント付近のパイプを持って操作しないでください。また、操作の際は他人やお子様を近づけないでください。
手や指をはさむなど、事故やけがにつながる恐れがあり危険です。

⚠ 注意

- 

このバギーは一人用です。二人以上の乗車や歩行補助など、目的以外での使用はしないでください。
- 

折りたたみジョイント、アームサポート、フット・レッグサポート、リクライニングの可動部等に指や身体をはさまないように注意してください。
- 

走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- 

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

段差のあるところを昇り降りするときは、バギーに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
バギーの破損や故障の原因となります。
- 

バギーを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、バギーに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
バギーの破損や故障の原因となります。
- 

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
- 

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- 

シートベルトの長さは、使用者の体に合わせて調節し、抜け出ないようにしっかり締めて固定してください。【オプション】
- 

最大体重(積載物も含む)は50kgです。体重制限を守って使用してください。
- 

使用者が乗車中は、折りたたみの操作は絶対に行わないでください。
折りたたみのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- 

介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起します」と声をかけてください。また操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルにかかりますのでしっかり支えてください。
- 

使用する前に主輪・キャスタ車輪・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

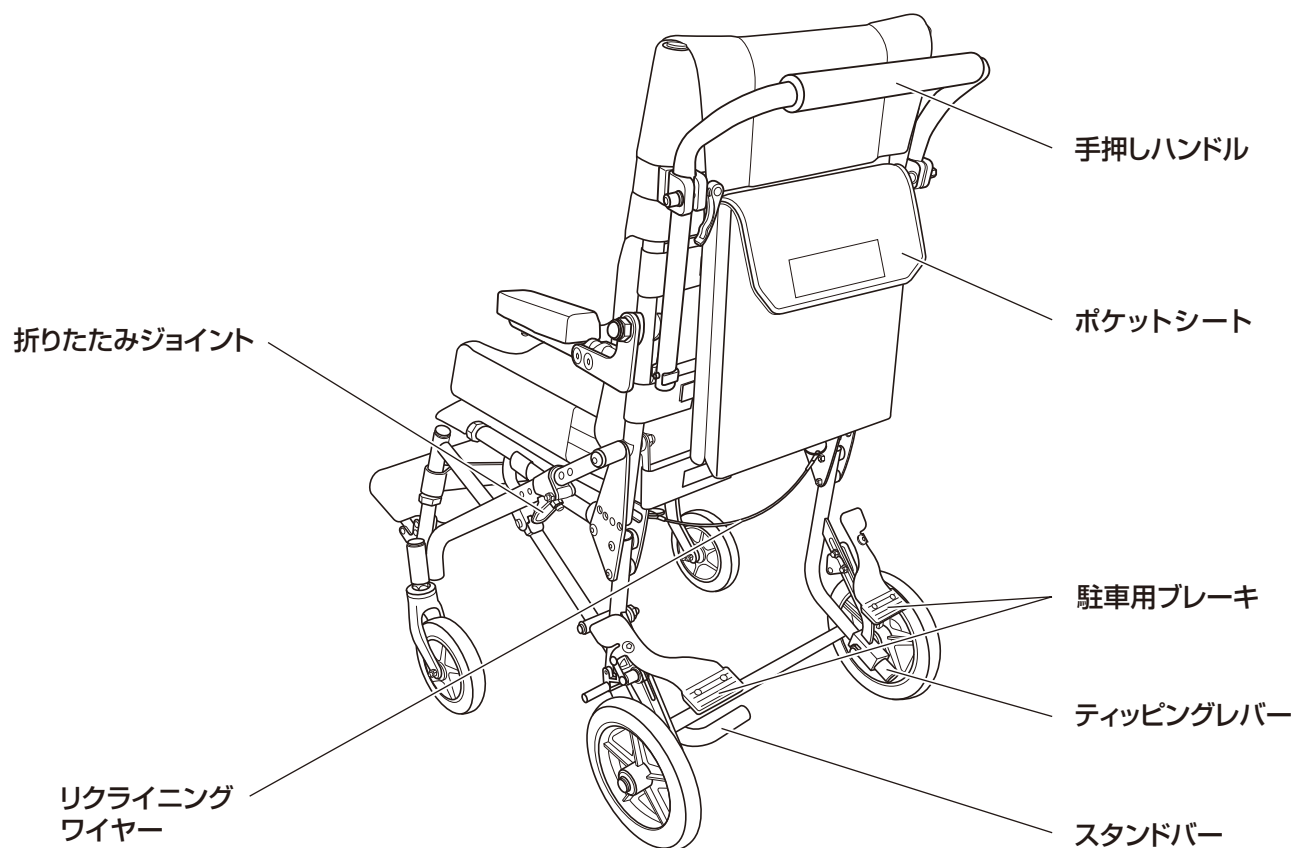
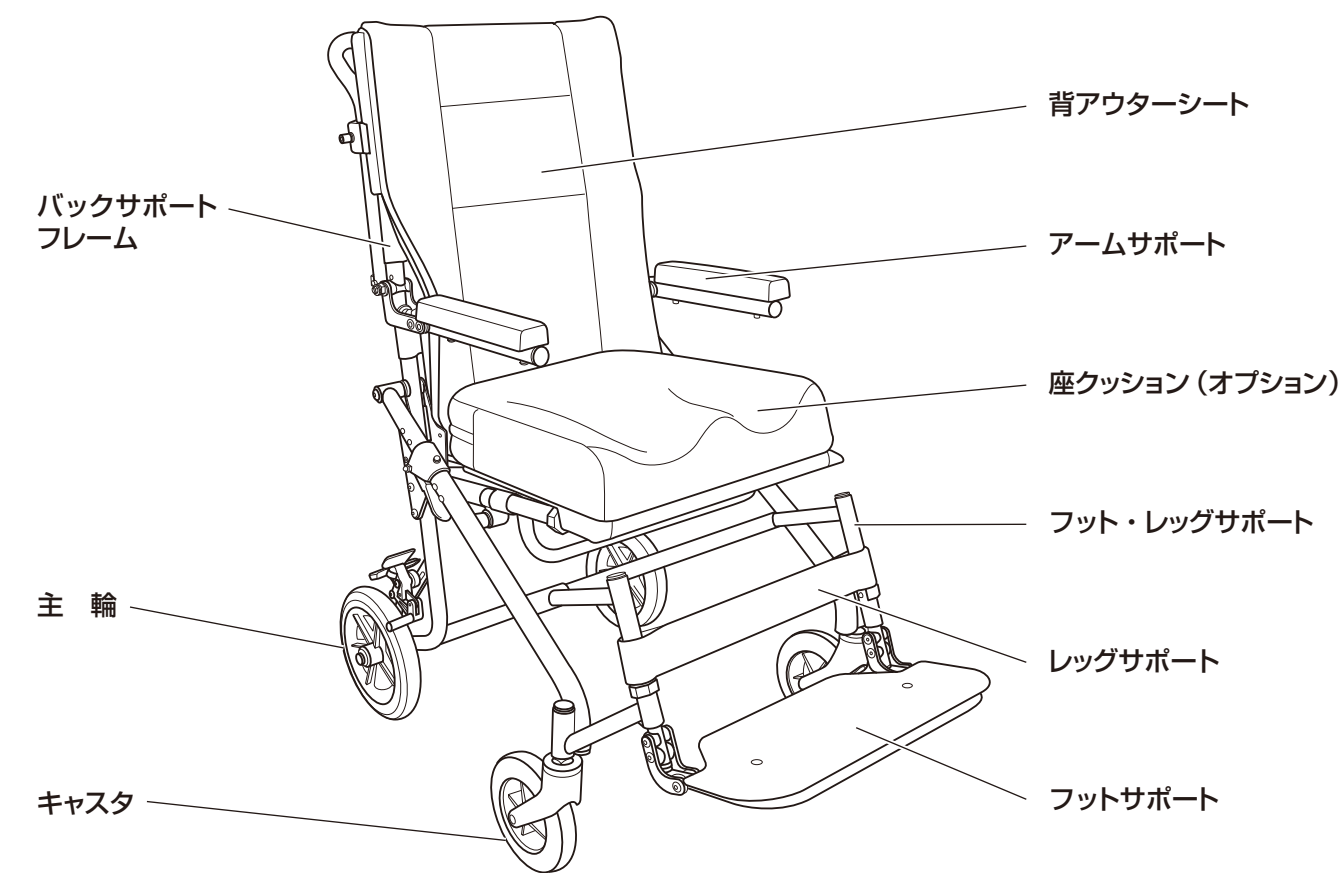
暖房器具にバギーを近づけないでください。
熱により変形したり火災の原因となる恐れがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。
- 

シャワーや入浴には使用しないでください。
水分や湿気などにより故障する恐れがあります。
- 

屋外で使用する場合は、舗装された道路など平坦な場所でご使用ください。
平坦でない場所で使用すると、バランスを崩して転倒するなどの事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

各部のなまえ



使いかた

ブレーキのかけかた

⚠ 警告

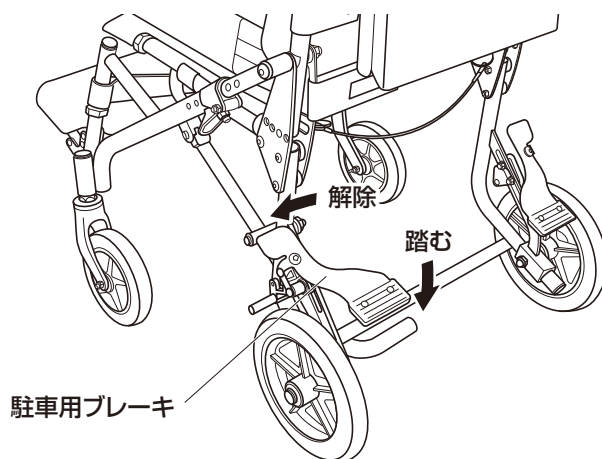
- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっているとバギーが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ バギーを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用してもバギーが動く場合があります、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店にご連絡ください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● かけかた

介助者が、左右の駐車用ブレーキを足で踏み、ロックするまで踏み下げます。

● 解除のしかた

左右の駐車用ブレーキを足で前に押し出すと、元の位置に戻り、ブレーキが解除されます。

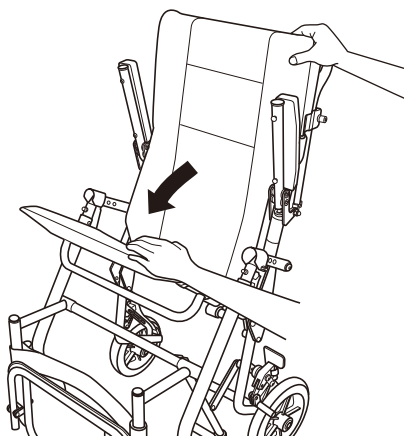


バギーの開きかた

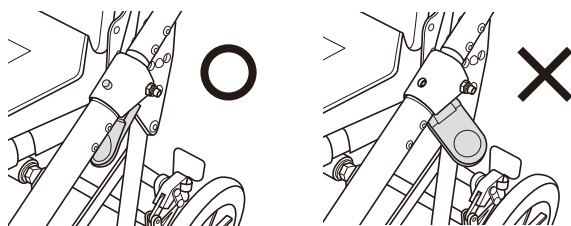
⚠ 警告	・ 操作時は折りたたみジョイントやジョイント付近のパイプを持って操作しないでください。また、操作の際は他人やお子様を近づけないでください。手や指をはさむなど、事故やけがにつながる恐れがあり危険です。
⚠ 注意	・ 必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 ・ 折りたたみジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。 ・ バギーを開くときは各部位が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

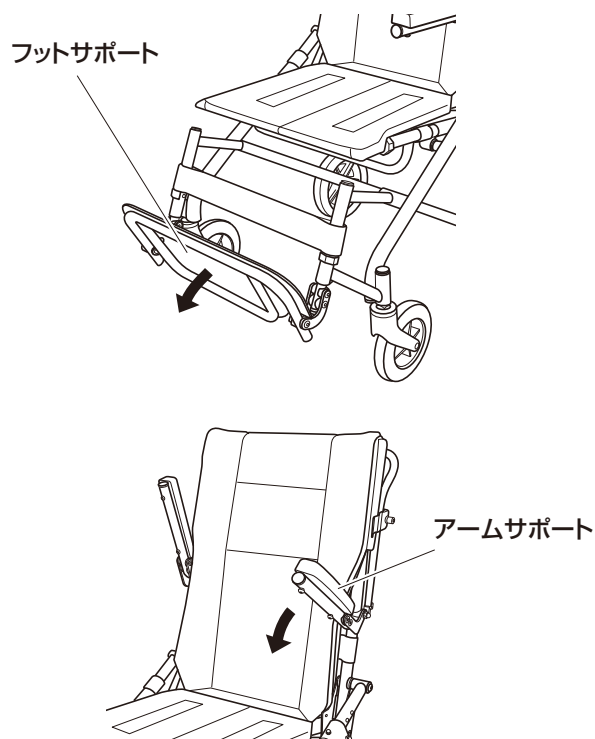
2 背パイプを片手でおさえ、座シート前方をもう一方の手の平で押さえ、座シートを押し下げます。



3 折りたたみジョイントレバーが背パイプと平行になっていることを確認します。平行になっていない場合は元に戻し、座シートを押し下げて、ロックピンが穴から飛び出て確実にロックされていることを確認します。



4 フットサポートとアームサポートを下ろします。



5 座クッション(オプション)を取り付けます。



バギーのたたみかた

△注意

- ・必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・折りたたみジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- ・バギーを開くときは各部位が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

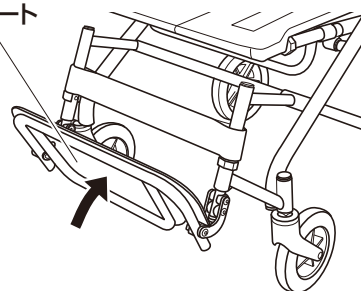
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

*リクライニングしている場合は元の角度に戻します。

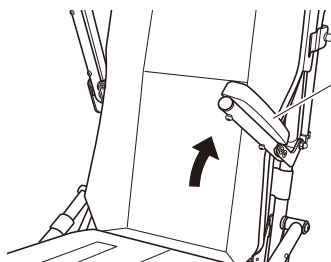
2 座クッションを取り外します。

3 フットサポートとアームサポートを上げます。

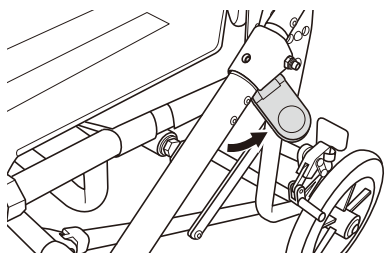
フットサポート



アームサポート

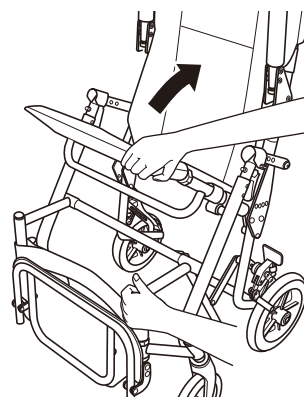


4 折りたたみジョイントレバーを上になく上げながら外側へ回転させます。

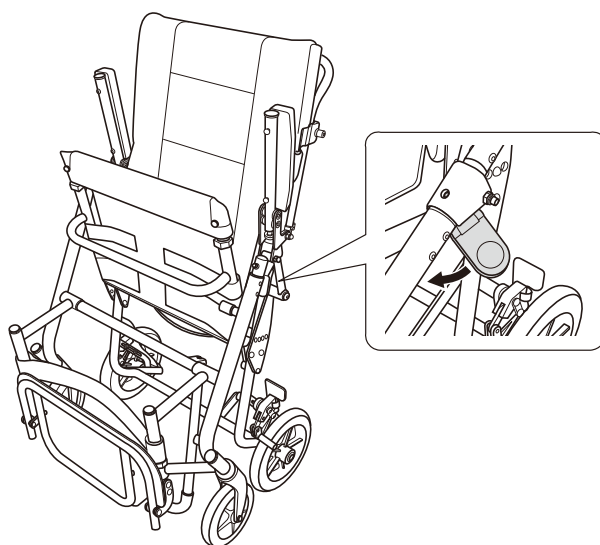


5 フットレッグサポートパイプを片手で押さえ、座シートパイプの前端をもう片方の手で持って上方へ引き上げます。

*可動部に手や指などをはさまないようにご注意ください。



6 折りたたみジョイントレバーを回転させて元の状態に戻します。



乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・ 乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。バギーが動きだし大変危険です。
- ・ バギーに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・ フレーム、突起物に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・ 乗り降り時は、水平で平坦な場所で行ってください。

● 乗りかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 乗り移る側のアームサポートフレームを跳ね上げます。
- 3 バギーをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。
- 4 アームサポートフレームを降ろします。
- 5 バックサポートの角度を調整します。
(11ページ「バックサポートの角度を変える」参照)

● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

アームサポートを跳ね上げることができます。ベッド等とバギーの間の移乗などがスムーズに行えます。

⚠ 注意

- ・ 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・ アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。手や指をはさむなどけがにつながる恐れがあります。

● 跳ね上げかた

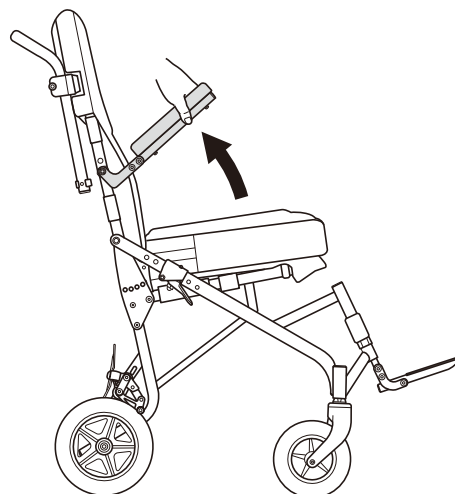
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 アームサポートを跳ね上げます。

● 戻しかた

⚠ 注意

アームサポートを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

アームサポートを下ろします。



各部の調節のしかた

⚠ 警告

- ・ 調節は人が乗車していない状態で行ってください。(バックサポートの張り具合調節を除く。)
- ・ 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。
- ・ シート奥行き・フットサポート長・アームサポート高の調節は販売店へご依頼ください。

アームサポートの高さ調節

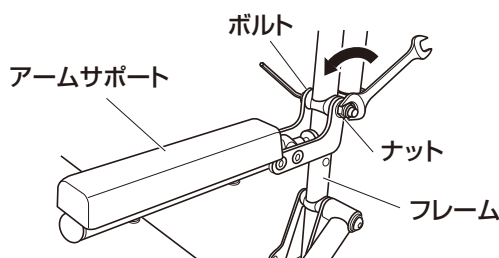
アームサポートの高さを5段階に調節することができます。使用者の身長やお使いのクッションに合わせて高さを調節してください。

使用する工具：六角レンチ 6mm / スパナ 13mm

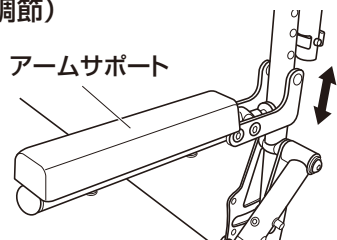
⚠ 注意

- ・ 高さ調節をした後は、アームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・ アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

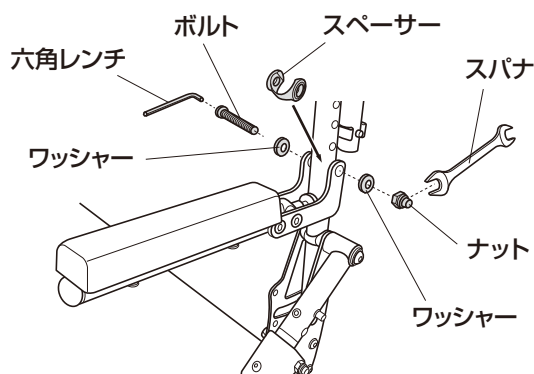
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フレームとアームサポートを繋ぐボルトとナットを工具を使って左右それぞれ外します。



- 3 アームサポートをお好みの高さに合わせます。(5段階調節)



- 4 フレームとプレート間にスペーサーを挿入し、ボルト・ワッシャー・ナットを調整穴に通し、工具を使って固定します。

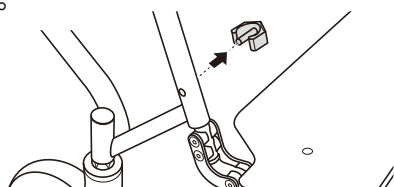


* 調節後、アームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

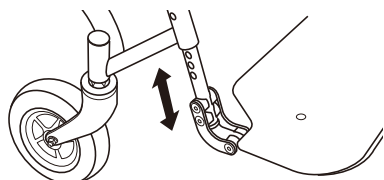
フットサポートの高さ調節 (Mサイズ、Lサイズの場合)

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートのロックピンを左右両方とも外します。

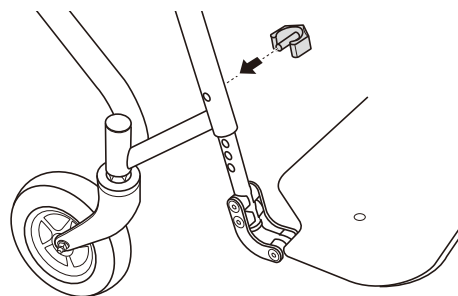


- 3 フットサポートパイプをスライドさせて、フットサポートをお好みの高さに調節します。(6段階調節)



- 4 調節を終えたら、フット・レッグサポートのロックピンを左右両方とも内側から差し込み固定します。

* フットサポートの高さが左右同じになっていることを確認してください。

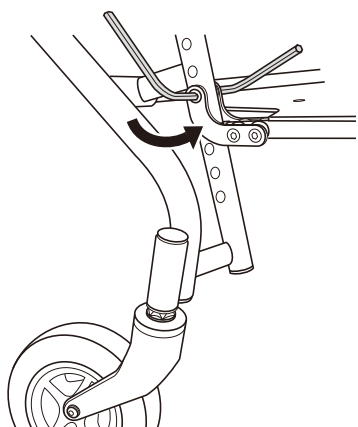


- 5 ロックピンがレッグサポートパイプの穴から出てしっかりとロックされていることを確認します。

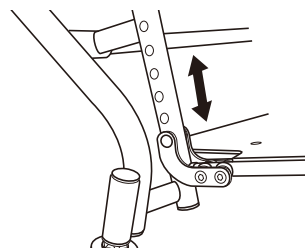
フットサポートの高さ調節(Sサイズの場合)

使用する工具：六角レンチ 4mm 2本

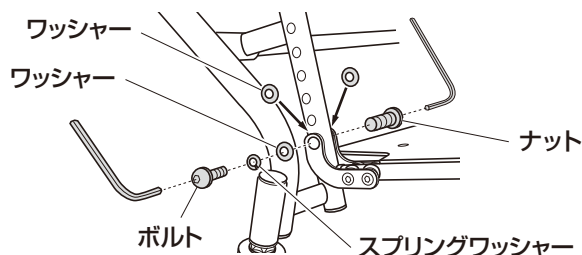
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フットサポートパイプとフットサポートを繋ぐボルトとナットを、六角レンチ2本を使って左右とも外します。



- 3 フットサポートをお好みの高さに調節します。(7段階調節)
* フットサポートの高さが左右同じになっていることを確認してください。



- 4 調節を終えたら、フットサポートパイプとプレートの間にワッシャーを挟み、ボルトとナットを調整穴に通し、六角レンチで締め付け固定します。

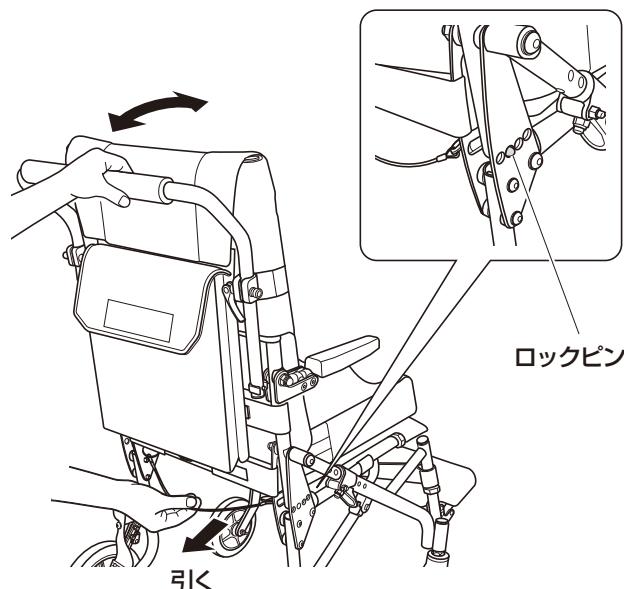


バックサポート(背もたれ)の角度を変える(リクライニング機能)

△注意

- ・ 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・ 介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- ・ バックサポートの角度調整後、ロックピンがプレート穴から飛び出て確実にロックされていることを確認してください。ロックが不十分な場合、バランスを崩して転倒したり、フレームのゆがみの原因になる恐れがあります。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを片手で押さえ、リクライニングワイヤーをもう一方の手で手前に引き、左右のロックピンが外れた状態にします。
- 3 2の操作を行いながらバックサポートの角度を調整し、お好みの角度が決まったらリクライニングワイヤーを放します。
バックサポートの角度が95～116度の範囲で調整可能になります。(4段階調整)
- 4 ロックピンが左右同じ角度のプレート穴から出てロックされていることを確認します。
* ロックピンがプレート穴から出ていない場合は手押しハンドルを軽く前後に動かし確実に固定してください。

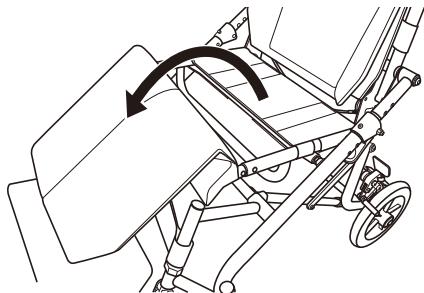


シート奥行き調節

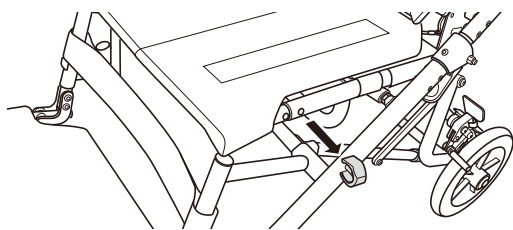
使用者に合わせて、シート奥行きを適切なサイズに調節してください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

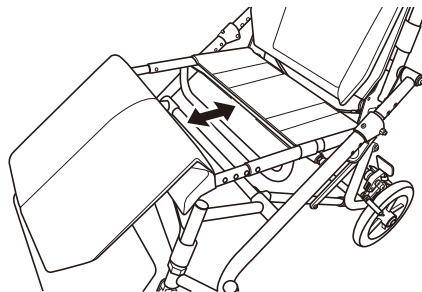
2 座インナーシートの面ファスナーを図のようにはがし、前方へめくり上げます。



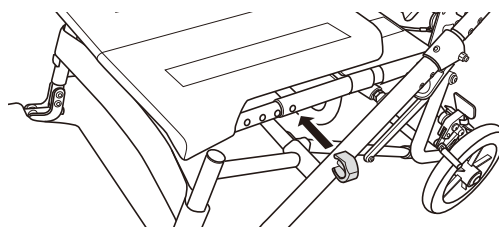
3 座シートパイプのロックピンを左右両方とも外します。



4 座パイプを前後にスライドさせてシート奥行きを調整します。(5段階調節)



5 座シートパイプのロックピンを左右両方とも、外側から差し込みます。



6 座インナーシートを元に戻します。

バックサポート（背もたれ）の張り具合調節

バックサポートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットし、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

* 調節は使用者を乗せた状態で行ってください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 図のように背面のポケットシートをはがします。

3 背面に3本ある背張り調整ベルトの長さを調節します。

・ゆるめるとき

中央のバックルの端を片手で持って手前に引くと、背張り調整ベルトがゆるみます。

右側をゆるめる時はバックルの右端を、左側をゆるめる時はバックルの左端を片手で持って引きます。

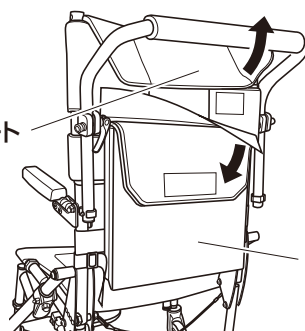
・締めるとき

図のように、背張り調整ベルトを左右に引っ張ります。

* 背張り調整ベルトの左右の長さが均等になるよう調整してください。

4 ポケットシートを貼り合わせて元に戻します。

背アウターシート



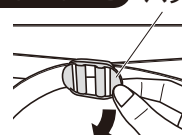
ポケットシート

締めるとき



背張り調整ベルト

ゆるめるとき バックル



端を片手で持って手前に引くとゆるむ

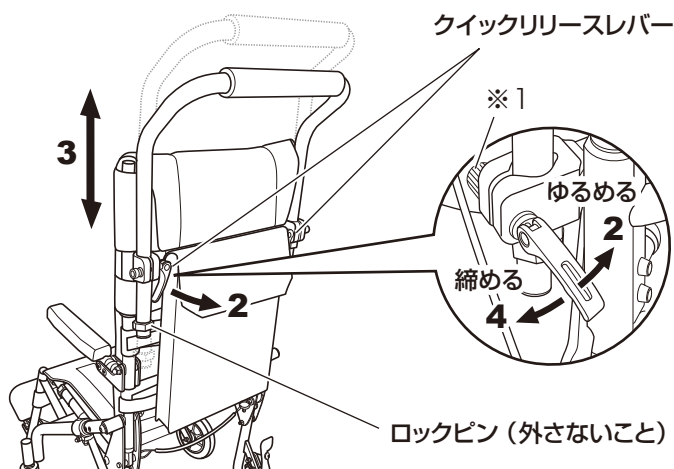
* アンカーサポート機能のついたクッションと合わせて使用すると、より姿勢保持の効果が得られやすくなります。

* 過度の調節（ゆるめすぎ、締めすぎ）はかえって姿勢を崩すことになりしますので、十分注意して行ってください。

手押しハンドルの高さ調節

介助者にあわせて、手押しハンドルの高さを変えることができます。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 左右のクイックリリースレバーを引き起こして、クランプをゆるめます。
- 3 手押しハンドルの高さと向きを適切な位置に調節します。
- 4 左右のクイックリリースレバーを倒して、クランプを締め込みます。



⚠ 警告	・調節した後は、必ず手押しハンドルがぐらつかないことを確認してください。クランプ力が不足したまま手押しハンドルを操作すると、バギーが不安定になり転倒などの事故につながる恐れがあります。 ※1 クイックリリースレバーによるクランプ力の調節は、レバーの反対側にあるナットを締めるもしくはゆるめることで調節できます。 ・手押しハンドルには重い荷物を掛けたりしないでください。バギーのバランスがくずれて後方へ転倒する恐れがあります。
⚠ 注意	手押しハンドルに取り付けられているロックピンは外さないでください。手押しハンドルが抜けることがあります。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前に必ず以下の点検・整備を行い、常に安全な状態で使用してください。

点検の結果、作動不良や違和感を感じたときは、すぐに使用を止め、お買上げの販売店へご連絡ください。

⚠ 警告	キャストの旋回軸やキャスト・主輪・ブレーキ等は定期的に点検してください。 ゆるんでいるときは増し締めをしてください。	キャストの旋回軸
-------------	---	-----------------

- ・バギーは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。

*ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

● メインフレームが固定されていることの確認

両側の折りたたみジョイントのロックをチェックし、メインフレームが固定されていることを確認してください。

● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、ひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が侵食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
主輪・キャスト	タイヤにひび割れなどがみられる場合。 表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣類用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意

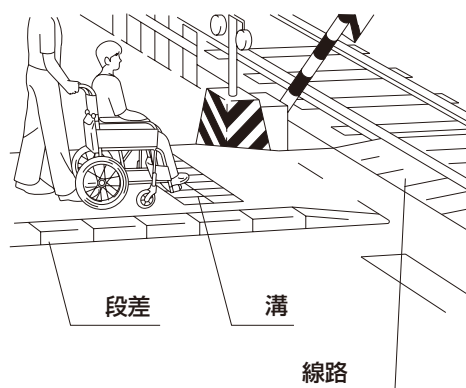
シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
バギーや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤの劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光が当たる場所には保管しないでください。

走行上のご注意

- ・バギーは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、溝に対して直角に進出し停車せずに通過してください。
踏切内で方向転換をしたり、線路に対して斜めに進入された場合、キャストや主輪が溝にはまり抜けなくなる恐れがあります。主輪の落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

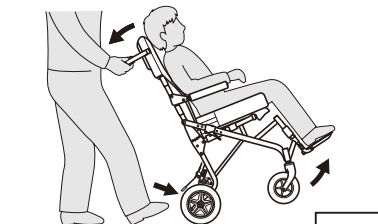


段差介助のしかた

⚠ 警告

・段差を乗り越える際はゆっくり慎重に操作してください。(スピードをつけて操作すると使用者の転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。)

- 1 足元のティッピングレバーを踏み込み、前方に押し出しながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。
- 2 主輪を段に突き当て、バギーを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
* 無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



困った時には

バギーをご使用されていて『故障かな?』と思ったときは、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対処のしかた
バギーがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 バギーは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないようにバギーを操作してください。 手押しハンドルの傾斜面の低い側により力を入れて押してください。
	前輪の回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	前輪、主輪の計4輪が確実に接地していますか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車用ブレーキが効かない。	主輪のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押えが主輪にしっかりと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどの干渉していませんか。	バギーに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油切れなどによっておこる摩擦音がしていますか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
リクライニングの動きが悪い。	リクライニングワイヤーのロックピンが曲がっていたり、バックサポートフレームが歪んでいませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

仕 様

機種名 SKIP_R/R (スキップ_ダブルアール)

単位: mm

フレーム材質	アルミ	サイズ	S	M	L
シート材質	ポリエステル、PVC ナイロン	全長	650	810	870
		全幅	500	540	580
		全高	965～1130	965～1130	965～1130
アームサポート	ウレタン	シート幅	280	320	360
サイドガード	なし	シート奥行	210/230/250 270/290	270/290/310 330/350	330/350/370 390/410
グリップ	プレストンクッション	バックサポート高	570	570	570
バックサポート	テンション調整	主輪径	8インチ	8インチ	8インチ
折りたたみ	あり レバー式	キャスト径	6インチ	6インチ	6インチ
フット・レッグ サポートタイプ	固定式	アームサポート高	190/205/220 235/250	190/205/220 235/250	190/205/220 235/250
フットサポート	S; ボルト固定 M、L; ポスト式	フットサポート・ シート間距離	80/100/120 140/160/180 200	230/245/260 275/290/305	280/295/310 325/340/355
キャスト	6"ソフトフォーミング	座角度	10度	10度	10度
タイヤ	8"ソフトフォーミング	リクライニング角度	85/92/99/ 106度	85/92/99/ 106度	85/92/99/ 106度
制動用ブレーキ	なし	折りたたみ時の全長	450	480	530
ハンドリム	なし	折りたたみ時の全幅	500	540	580
駐車用ブレーキ	専用足踏みブレーキ	折りたたみ時の全高	965	965	965
		重量 (kg)	9.3	9.6	10.0

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店または弊社へ、この商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保 証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元


株式会社 ミ キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号